

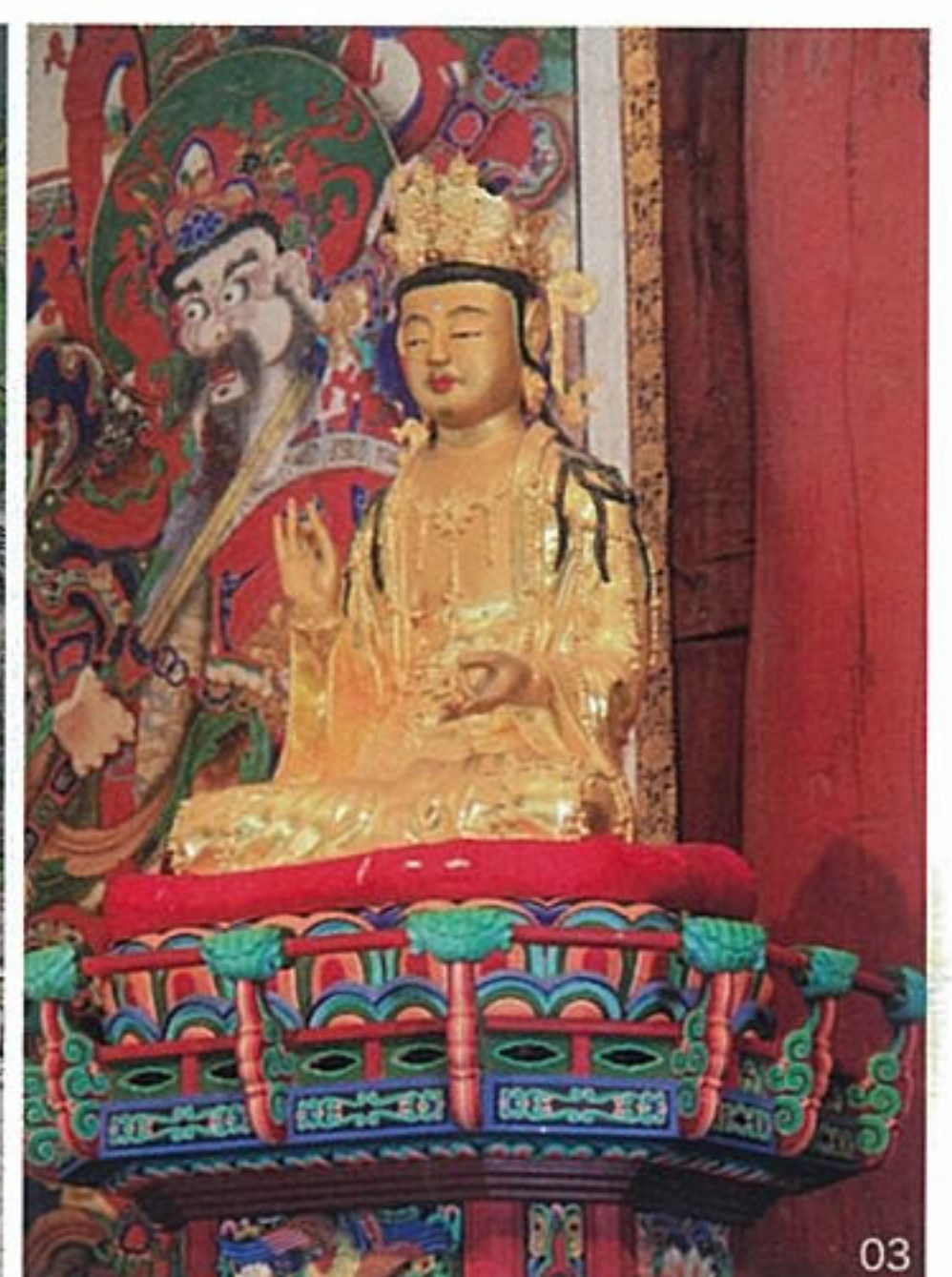
「三十三観音聖地」
「テンプルステイ」

韓国「名刹巡礼」で見つけた 祈りと癒しの時間



わが国に仏教が伝来したのは6世紀半ば。三韓のひとつ、百済を通じてのことだった。むろん韓国全土には、今も歴史に名を留める名刹が残るとともに、神聖な信仰の場であり続けている。古刹の中には、人気の歴史ドラマの舞台やロケ現場となった場所も多い。実際の寺院で修行体験できる「テンプルステイ」が整備されているほか、最近では、日本に倣い、「三十三観音聖地」を定める動きもある。それらを上手に利用し、祈りと癒しの旅に出るのも一興だろう。

Photos : NOBORU AOKI



ヘインサ
海印寺
観音霊場
十九番

01. 統一新羅時代の802年に創建された。韓国三宝寺刹のひとつ（法宝の寺）。13世紀に完成した八万大蔵經の経板を収蔵することで知られる。1995年経板庫と大蔵經は世界文化遺産に登録された。02. 伽倻山南麓に位置し、周囲には美しい溪流が流れる。03. 大寂光殿では、信仰の厚い巡礼者の姿が絶えない。



ブルグクサ
仏国寺
観音霊場
二十三番

01. 新羅の都・慶州の吐含山の麓にあり、石窟庵とともに、751年に創建された。紫霞門は、仏教美術の精華と謳われる。1995年、世界文化遺産に登録。02. 韓国最古の多宝塔は優雅で類のない逸品だ。03. 入り口を護る極彩色の四天王像。04. 住職の性陀上人は、韓国でも知られた高僧のひとり。



古刹名刹を網羅する観音聖地

心の癒しを求める世相を反映し、日本では「お遍路さん」の呼び名で親しまれる四国八十八カ所巡礼が根強い人気を誇る。今回、韓国仏教文化事業団と韓国観光公社らで組織した推進委員会が定める「韓の国三十三観音聖地」はいわばその韓国版だ。

三十三カ所は、地域性と韓国仏教の伝統的な姿を紹介する観点から選び、「札所認定証」を授与。各寺院に、寺の由来、伝統文化を解説する専任の先達を置く。住職の法話や朱印帳への押印もあり、三十三カ所の達成者には記念品も贈られる。

韓国の観音信仰は、わが国同様、長い歴史を持つ。多くの観音聖地が存在し、またほとんどの古刹で観音菩薩像を安置しているという。

今回、認定にあたり、中心的存在となったのは韓国仏教の総本山といふべき曹溪寺（ソウル市）である。認定された三十三寺院には、普門寺（京畿道・江華島）、洛山寺（江原道）、菩提庵（慶尚南道）といった三大観音聖地はもちろん、三宝寺刹に数えられる通度寺（慶尚南道）、海印寺（慶尚南道）、松広寺（全羅南道）や、わが国でも知られる仏国寺（慶尚北道・慶州）が含まれる。

主だった古刹名刹が網羅されるわけで、観音聖地を巡るならば、自ずと「韓の国」の仏教文化の精髓の一端に触れることにな

ボモサ
梵魚寺
観音霊場
二十五番

01. 老松の生い茂る参道は、釜山市民の憩いの場だ。山門は一柱門で、横一列に並ぶ4本の石柱が木造瓦葺の屋根を支える。稀少な建築様式が世界的に高く評価されている。02. 678年、新羅の高僧・義湘ウイサン大師が創建。釜山郊外の東萊温泉トンネの北、金井山の麓にある禅刹大本山。



キリムサ
祇林寺
観音霊場
二十二番

01・02. 643年、天竺の僧・光有が創建したと伝えられる。当初の名は、林井寺。新羅の高僧で浄土教の先駆者として知られる元暁ウォニョ大師が滞在、現在の名に改めた。慶州から日本海へ抜ける道筋に佇む。含月山の懐に抱かれ、テンプルステイ体験をするには、格好の古刹といえる。03. 寺の朝は早い。明け方の3時、礼仏（勤行）から、一日が始まる。04. 参禅は、本来の心、真の自己を明らかにする機会となる。05. 鉢盂供養とは、各自、自分が食べることができる量に従って供養（食事）する器という意味。半跏趺坐で座り、話は厳禁。食器の音も立てないように注意する。食事が終わると、器は、食事前の状態と同じようにして戻さなければならない。06. 夜には、寺の周囲に自生する茶畑から摘んだお茶が振舞われた。07. 韓国では珍しい国宝の乾漆の菩薩座像。朝鮮王朝時代、人気ドラマ『チャングムの誓い』ヨンサンケンにも登場する燕山君の治世（1501）の作。艶美ともいえる表情が印象的だ。



トンドサ
通度寺
観音霊場
二十四番

01. 新羅の慈蔵チヤジャン律師が唐の五台山より釈迦の頂骨舍利と袈裟を持ち帰り、646年に創建。韓国三宝寺刹の中でも最古の歴史を持つ。舍利を収めた金剛戒壇が、仏像のかわりをなしていることから、仏宝の寺と呼ばれる。02. 慶尚南道梁山にある霊鷲山の麓にあり、細長い境内に法堂だけで12の伽藍が建ち並ぶ。03. 写真の布は、慈蔵律師が持ち帰った袈裟。04. 厳しい修行を求め、留学してきた日本人僧の小泉智広さん。

Temple stay



るだろう。

多彩な修行プログラムを体験

儒教を国教とした朝鮮王朝時代、迫害を受けたこともあり、韓国の寺院の多くは、今も、俗界を避けるように山中に佇んでいる。

都会の喧騒を離れ、瞑想に耽りたい。そんな思いを抱く現代人は少なくないだろう。やはり韓国仏教文化事業団が推進する「テンプルステイ」を利用すれば、気軽に山寺宿坊に泊まり、鉢盂供養（精進料理の食事）、自然の中での座禅と朝昼夕の礼仏（勤行）など、多彩なプログラムを体験できる。

実は、この制度、2002年、日韓共催で行われた『ワールドカップ』時に、宿泊先として寺院が提供されたのがきっかけというから、面白い。周囲を包む美しい自然、厳しい修行に励む僧侶。今では欧米人の利用者も少なくなく、すでに73の寺院が、この制度に共感し、宿泊を受け入れている。

テンプルステイは1泊からの参加が可能。受け入れ先には、先の「三十三観音聖地」と共通する寺院も多い。まずはテンプルステイホームページ（www.templestay.com）を通じ、可能な日程を確認しよう（要事前予約）。1700年の歴史を持つ韓国仏教。これら古刹名刹巡りや、山寺での修行体験を通して、癒しと祈りの時間を持つならば、あなたも、きっと真実の「自分」を見出すことができるに違いない。